

平成29年2月10日

各位

会社名 日本セラミック株式会社
代表者名 代表取締役社長 谷口 真一
(コード: 6929 東証第1部)
問合せ先 I R担当執行役員 藤原 佐和子
(TEL. 0857-53-3838)

平成28年12月期通期業績予想と実績値との差異、為替差益の発生 及び特別損失（事業構造改善費用）の計上に関するお知らせ

平成28年8月5日に公表いたしました平成28年12月期の通期業績予想と本日公表の実績値に差異が生じました。また、当期において為替差益の発生、及び事業構造改善費用の計上をいたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成28年12月期通期連結業績予想と実績値との差異（平成28年1月1日～平成28年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	20,000	2,300	1,880	1,300	55.94
今回発表実績 (B)	19,525	2,741	3,140	2,106	88.32
増減額 (B-A)	△475	441	1,260	806	
増減率 (%)	△2.4	19.2	67.0	62.0	
(参考) 前期実績 (平成27年12月期)	20,173	1,813	2,571	1,724	74.77

2. 当第4四半期連結会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日）における為替差益の発生

当第3四半期連結累計期間（平成28年1月1日から平成28年9月30日）において、1,072百万円の為替差損を計上しておりましたが、その後の為替相場の変動により、当社が保有する外貨建資産の評価替えに伴う当第4四半期連結会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日）において、961百万円の為替差益が発生したことから、通期における為替差損は111百万円となりました。

3. 特別損失（事業構造改善費用）の計上

抜本的な事業構造改善の一環として、採算が悪化している中国のトランス事業の整理・縮小に伴い、固定資産の減損損失73百万円、たな卸資産の評価損79百万円、特別退職金31百万円、及び関連費用29百万円を事業構造改善費用として特別損失に213百万円を計上いたしました。

4. 差異が生じた理由

売上高につきましては、一部顧客在庫調整及び不採算製品の見直しにより、前回予想を下回る結果となりました。

営業利益につきましては、製造工程の改善等による製造費用の圧縮等により、前回予想を上回る結果となりました。

経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、上記2及び3より、前回予想を上回る結果となりました。

以上